

カ有ル可キ答ハ無ク若シ又一切カ有ルハ

第四項 存在及び現象

前キ言フ通り哲學ハ全宇宙一切カ有ル美

在的原理ニ研究スルハ宇宙カ有ル關係自性ハ

全宇宙一切カ有ル實在的原理ヲ有テ全宇宙一

切カ有ル關係自性ノ現象的表現ヲ有ルヲ斷

定シタカサテ^{其行爲ノ最終要素ニ成テ}實在的原理ト現象的表現トノ

關係即チ本項ノ題目テ有ル所ノ實在ト現象ト

ノ關係ハ如何テ有ルカ是カ結局最終ノ問題テ

有ルカラ一言シテ置カ子ハナラヌ

プラトノアイデア論ガ全宇宙一切カ有ル上

ニ起ルタルアイデアガ何故ニアイデアノマ

ニ居ラスニテ^{同様に指シタル}形而下ナル全宇宙一切カ有ル

表現ニタルカ^{トニテ}後ハ^{トニテ}素地ト有テ無

有ル^カ素地ト有テ無トノ二元論ニ陥ルタルカ

如キ^ト全ク^ト素地ト有テ無トノ二元論ニ陥ルタルカ

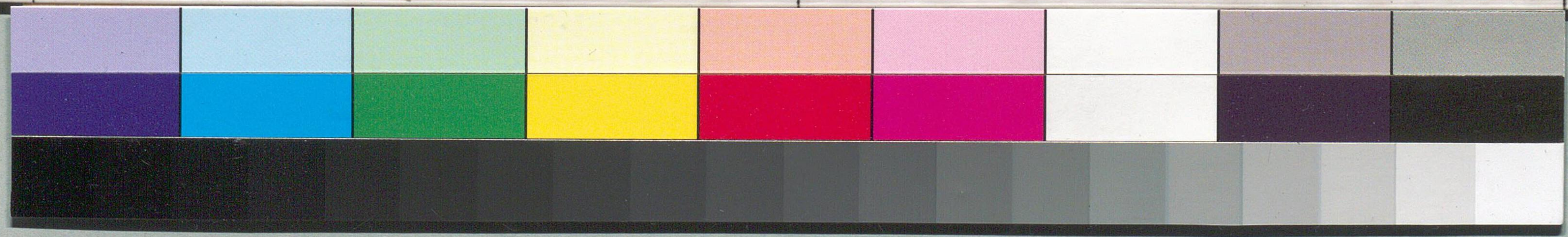
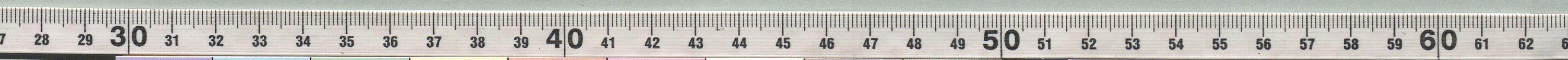
ナリ^ト此ノ問題ニ於テ^ト素地ト有テ無トノ二元論ニ陥ルタルカ

此ノ問題ニ就テモ本稿述ノ趣上カラ見レハ^{何事}

東條貞樹

首、因難モ無イ何等ノ面倒ナル答辯ヲモ夢也
又ナルホト哲学ハ全宇宙一切万有、實在の原
ヲ研究スルノ學問ナリ其學問の原理ハ精
紳ナル研究ノ結果トシテ關係自性ト相分リ
コト此全宇宙一切万有、實在の原理ナル
關係自性ト此關係自性ノ現象の表現ナル全宇
宙一切万有ト關係自性トハ畢竟實在ト
之フ一ノ概念ト現象ト之フ他ノ概念ト、關係
ヲ同シテ有ル實在ト現象ト關係ナル實在
ト現象ト實在ト關係ナル現象ト有ルカラ
在ラ部シタル現象無イト同時ニ現象ヲ部シタ
ル實在モ無イト實在現象ノ兩側概念即チ實在
の原理ト現象の表現ト無二無別ト關係之
ル所ノ甲乙兩項ニ有ルカニ關係自性カ具存ス
ル所ノ表現の理法ニ其効力ニ因テ発動スル
所ノ表現の契機、同時方面ニ因テ支那カレ
ルカ有^カヤハ^リ此兩概念即チ甲乙兩項ハ關係
自性ノ現象の表現ト有テ關係自性ハ此兩概念
即チ甲乙兩項ノ實在の原理ト有ル是レヘ
カ所謂止揚ト云フモノナリ倫理ノ基礎ハ終

東條貞製



本館中
各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

第一 各科学ノ原理ヲ統一スル也

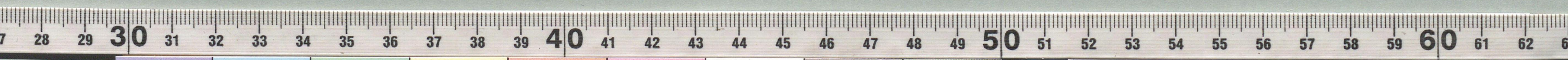
東横製

△關係自性ノ
理及法ニ
基キテ

科學ノ歴史學

ノ四ツテ百ル心理學トカ物理學カ社會學トカ
 言フテモ極廣クイ意味テ有ルト考ヘ子ハナラシ
 第一ニ心理學ハ主觀的認識力即心ヲ以テ其カ
 對象トシテ其レカウ起ル所ノ一切ノ現象ヲ研
 究スルノ示有ルガ本講義第三章第一節ニ言フ
 所^{新トト信ト}ノ主觀的^{心種作用}四種作用^{軸ト}為ルテ關係自性
 之ヲ實驗ニ徴スル^{物理學ハ客觀的存在}
 之カ片チ物ヲ以テ其研究ノ對象トシテ其レカ
 起ル所ノ一切ノ現象ヲ研究スルノ示有ルガ
 博物學ノ部ニ屬スル所ノ鐘^{即天地万物}植物動物ノ現象
 的記述^存生理學ノ部ニ屬スル所ノ^{化學}物理學^{抽象的}
 即チ^{即チ}數學音響學^{光學}磁氣學^{電氣學}等ノ現象的
 的^{即チ}等ハ一モ其實在的原理ナル關係自性ノ理
 法及^法其^法移カ^法ノ變^法轉^法指^法移^法カ^法ウ^法起^法ラ^法又^法ハ^法理^法イ^法カ
 之ヲ以テ根軸ト為シ之ヲ實驗ニ徴スル^{手記}
 カ物理學ヲ有ル第三ニ社會學ノ中ニハ人ト人
 トノ關係ヲモ人ト人トノ關係即チ國家學ヲモ
 國ト國トノ關係即チ國際學ヲモ人ト社會一切
 社會的現象ヲ包含スルノ示有ルガ拙者ガ今茲

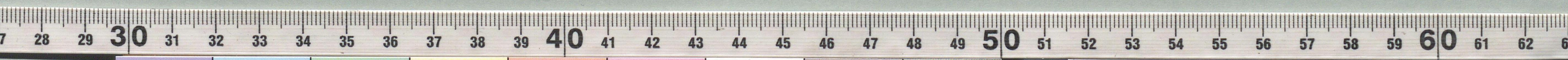
東林堂製



ニ言フ所ノ意キ意味ノ社會ト申乙傳肯表現
的契機ノ發動ニ基キ心的作用ト物的作用
トハ共存並立セル所ノ競争場チ有ルカ
的ニ
競争ニテ居ル構態ヲ意味スルノテ有ルカ
的的作用カウハカリ後ハ空論ニ為ル
物的作用カウハカリ後ハ無意味ニ為ル
社會的現象トハトチ關係自性ノ理屈ト契
機ニ基キ心的作用ト物的作用ト、感應影響
カウ起ル所ノ社會的現象ト、
ヲ實驗ニ徴スルノカ、社會学チ有ル等四ニ歴史
学ハ一切ノ社會的現象甲乙傳肯表現的契機ノ
發動ニ基キ心的作用ト物的作用トの融合
一致ニテ起リタル一切社會的現象ハ從テ有
ルカ是モ亦心的作用ノ結果チモ無キ物的作用
ノ結果チモ無キ双方融合一致ノ結果チ有ル也
契機ニ基キ心的作用ト物的作用ト融合一致
上ヨリ一切ノ社會的現象ヲ實驗ニ徴シ
從ハスルノカ、眞ノ歴史学チ有ル近來學界ニ於
テ歴史の結果ノ上ニ置クヤウニ為リ
フ可也チ有ルガ此道理ヲ等用視ニテ歴史ノ伝

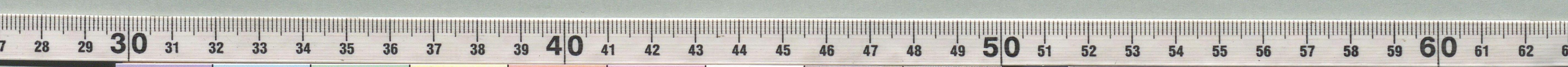
東條原製

カ有ル



果ヲ主観的方面又ハ客観的方面カラハカリ説
キ振ケルヤウテハ何ニモ由ラヌ
各科学ノ原理ヲ究一ニテ其発達進歩ヲ促スノ
論ハ随分コト入り夕議議ヲ有ルカラ今ハ只
其大体ノ目的ノ一ヲ一言ニテ置クノコト有ル
本論中ノ
算二段ル落タル東西古今ノ宗教各宗派ヤ哲
学各系統ヤ
ト本清匠ノ關係ハ隨分面倒ナ
ル
其論ハ至テ尙易易ヨリテ爲ルヲ爲ルヲ爲ル
ト云フ也
從前ノ哲学史トカ宗教哲学ハカヲモノハ自
カ信奉スル所ノ宗教又ハ哲学系統ノ見地カラ
シテ他ノ宗教各宗派又ハ哲学各系統ヲ是非ス
ル者タルニ過キヲガ此關係哲學ノ上カ見レハ
從前東西古今ノ間ニ於テ起リ夕所ノ宗教各宗
派又ハ哲学各系統ノ根本的基礎ハ一トシテ宗
條自性ノ理法及ヒ契機四種方面中ノ一方面ノ
上ニ立タヌハ
シテ說明スレハ從前ニ於ルニ宗教宗派
ル根本的基礎ノ基ヲ示シテ信スルハ同時ニ

東條貞製



夕力加へて有ルガ是也。何佛第三意第一款分二
 項分四句ニ言フ如ク肯甲乙表現的契機ノ意動
 一基ウク所ノ無宇宙論ノ一方面カラ直理解ラ款
 吹シクテ有ル
 佛教ハ大小乘ノ別ナク因縁ヲ以テ其宗趣ト為
 コテ居ルガ因縁トハ字義的ニ解釋スレハ因ハ
 親因縁ハ疎縁トテ直接原因間接原因ト
 有ルケシハモ因縁ハ連用スレハ則互為因縁無
 自性ノ意味ニ為ル即テ本講述ニ所謂關係自性
 ト同シテ有ル故ニ佛教申テリ人カ對境ニ
 物原スルヲ見レハ方法唯心ト從キ心ニ從キ物
 スルヲ見レハ我空法有ト從キ心法對立ニ拘泥
 スルヲ見レハ我法有ト從キ心法對立ニ拘泥
 スルヲ見レハ諸法空相ト從キ心ヲ甲ト乙法ヲ
 乙トシテ言ヘハ方法一心從ハ肯甲否乙表現的
 契機我空法有從ハ否甲肯乙表現的契機我法
 空從ハ甲乙俱否肯表現的契機我法二空從ハ
 甲乙俱否表現的契機我法有レハ其他俱舍
 宗ノ生空明心法空心法有レハ吾甲肯乙
 表現的契機法有唯識論天台宗ノ一心三觀

東林樓製

其他無明ニ因テ流轉ニ觀行ニ因テ涅槃ニ入ル

ノ理(遠)信ニ因テ墜落シ信向ニ因テ救極セラル

。ノ理不信心ニ因テ沈淪シ歸命ニ因テ未迎セ

ラル。ノ理ナドモ実ハ表現的理法表現的契機

四種方面ノ變轉推移ニ外ナラテ有ルカラ

必スモ本備述哲學系統以外ノ事ハ無イトキ

カテヲモ知ラ子ハナラテ此理法契機四種方面

ノ變轉推移ヲ促スノカ爲際ナリ釈迦ナリ耶蘇

基督ナリノ教ヲ有ルト云フヲモ知ラ子ハナラ

テ夫ノ如態信ノ四科(山ノ正偏五位ナドモ)

此關係自性ノ注キ々々トシテ其理法ヤラ契機

ヤラテ變轉推移ニテ決シテ一方面ニ止

マラテヲ人ニ了得サセヤウトスルノ善巧方

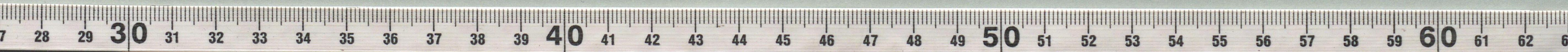
便タルニ外ナラテト云フヲモ知ラ子ハナラ

東林原製

佛學為宗、唯心現、禪真言宗、大日如來心王覺
 付禪禪宗、通身人心禪（復性法每）、肯甲名乙表現的
 聖教、奈言十有九成、奈言三禪宗、人法二空、臨
 以甲乙俱有表現的聖教、奈言十有九成、此カシナ
 カラ併教（此字）、前ニ言フハ、解リ從法の善巧方便
 テ有ルカラ、實ハ左ヲ言フテ右ヲ指シ右ヲ言
 フ左ヲ悟ラセルヤウナリガ多ク、テ有ル
 支那最古ノ聖學トモ言フ可キ周易哲學ハ、聖學、詳
 傳、解釋ニ因レハ、太極（附陰陽）ト四象トカ根本的
 概念テ有ル太極ハモノ、トニツマリ、テ有
 全宇宙一切万有ノ實在の原理陰陽（中）日カ
 日夕ト、兩現象ニ採リテ、（所從）相行のナリ、（全宇宙）
 在、（通名）此カ所ノ名テ有テ、即チ甲乙兩頂テ有ル
 四象即チ少陰二少陽二太陽二太陰ニ、陰中ニ
 陽ヲ把持包含シ、少陰陽中ニ陰ヲ把持包含
 シ、少陽陽中ニ陽ヲ把持包含シ、太陰陰中ニ
 陰ヲ把持包含シ、融合一致、（此カ）夕ノカ太
 陰陰カ、陰陽ニ融合一致、（此カ）夕ノカ太
 陰一陽ニ、（此カ）道トハ、陰外陽ト交易ニ得對スルノ
 カ道テ有ルト云フ、陰陽不測之謂神トハ、陰陽
 ノ兩儀互轉、指移測ラレサレ、ノガ（其）神テ有ルト云

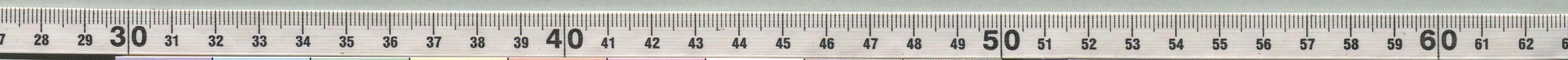
東橋原製

柳河



「テ有テ實」
「不克分」
「十カヲモ」
「關係自性」
「活動」
「ヲ」
「後」
「之」
「ヤ」
「ウ」
「ト」
「シ」
「タ」
「ノ」
「テ」
「有」
「ル」
「ト」
「見」
「ル」
老子カ有無
相生
難易
相成
長短
相形
高下
相傾
音
声
相和
前後
相隨
ト言ヒ
莊子カ
物無非
彼物
無非
是ト言ヒ
彼
出
於
是
是
因
彼
ト言ヒ
是
非
彼
也
彼
非
是
也
ト言フ
夕
ナ
ト
ハ
甲
乙
兩
項
カ
相
待
的
ニ
關
係
シ
テ
互
ニ
把
持
セ
合
シ
把
持
セ
合
セ
ラ
レ
互
ニ
融
合
一
致
ニ
融
合
一
致
セ
ラ
ル
、
、
理
ヲ
後
的
ニ
夕
ヤ
ウ
ト
シ
タ
ノ
テ
有
ル
ト
考
ヘ
ラ
ル
、
、
一
体
ヲ
如
ク
シ
テ
子
ハ
大
拍
倫
理
問
題
カ
ラ
其
端
ヲ
起
シ
タ
ノ
テ
有
ル
カ
ラ
只
客
觀
ヲ
著
眼
ト
シ
テ
認
識
シ
タ
ハ
カ
リ
テ
主
觀
的
反
省
ノ
起
ル
ハ
其
夕
層
分
テ
テ
有
テ
宗
ノ
即
康
節
カ
太
極
心
也
太
極
ナ
ド
カ
免
祖
テ
陸
象
山
ヲ
係
テ
明
ノ
玉
陽
明
カ
良
知
是
造
化
的
精
靈
這
些
精
靈
生
天
生
地
生
鬼
生
神
皆
是
可
以
出
入
通
是
ト
物
ヲ
甚
ナ
ド
、
善
フ
ニ
至
ワ
テ
其
委
ト
イ
從
的
也
無
イ
ケ
レ
ト
モ
大
ニ
唯
心
的
傾
向
カ
素
遠
ニ
タ
ノ
テ
有
ル
カ
ラ
古
今
ヲ
通
シ
テ
其
如
ク
學
ブ
擬
偏
ス
レ
ハ
心
ヲ
善
定
シ
物
ヲ
肯
定
ス
ル
所
ノ
吾
甲
肯
乙
表
現
的
學
校
ノ
系
統
カ
ラ
始
リ
テ
心
ヲ
肯
定
シ
テ
物
ヲ
肯
定

東條家藏



るル所ノ肯甲否乙表現的契機ニ捨移シタルヲ
有ルト言フテ宜シイ
カ三 既巴哲字ヲ母代哲字ト直世哲字トノ
ニフニ分テラ其大段落ヲ言ヘト 古代哲字ニハ
四 期 膠カ有ル
カ一 期 ソロト前ノ哲字ニ全宇宙一切万有
實在的原理ヲ研究セテハ心ヲ甲トシ物ヲ乙ト
シテ之ヲ言ヘン 吾甲肯乙表現的契機ノ発露
ナリ信物語カ
テ起リテアナクナゴラカ混化ヲ破リテ一切
万有ヲ出シテ所ノ神智ト異性他ノ種子トノ共
存ヲ認由尊甲乙傳肯的表現的契機ノ発露
リカニ 既ナリソフイストノ哲字ヲ有ルプロクダゴ
ラスガ人ハ万有ノ尺存ナリト云ヒテ所ノ肯甲
否乙表現的契機ノ発露ニ起リテゴルテヤスガ
吾人ハ實在ヲ認識スルノ力無リヨコヤ實在カ
現存トシ吾人カ之ヲ認識スルヲ得ルトシテモ
吾人ハ之ヲ他人ニ傳フル能ハスト却ラ心ヲ若
定ニル所ノ否甲肯乙表現的契機ニ移リ第三期
ナルプラトニーノ哲字ヲソクテマノ向答ト
シテ其意ヲ示シ 吾人ハ道由全宇宙一切万有ノ實在

東條貞隆

ハ世ニ
ラ以テ全
宇宙ハ
不石ノ
本伴ハ
ニ生カ
ル



第二款 本講述、結果

本講述ハ二三同好者ノ忠告ニ因テ目下草稿中
 ノ關係哲學題目ト哲學概念談府ト科學原理統
 一論ト東西哲學判別史ト、四種ノ書ヲ合稱シ
 テ哲學一家言ト名ツケタ所ノ廣汎ナル議論ノ
 大要ノミヲカイワマンテ一週日ノ間ニ之ヲ口
 述シテノ有ル何分ニモ百返モ千返モ例ヲ舉
 類ヲ推シテ説的セシハハナラヌヲタツタ一
 二言若シクハ一二ノ年近十例ヲ舉クルニ止リ
 テ置クノ有ルカラ不充分テ有ルトハ固ヨリ
 申スマテモ無ク然レナカ^{先ニ角ニ僅々一週日間ノ仕事トシテ}ラ我々ノ物ヲ知ルノ
 力即チ主觀的認識力ト我々ヲレテ知^{歸納的ニ}ムル
 ノ力即チ客觀的存在力トノ兩方面カラキリ々
 々推シツメテ全宇宙一切万有ノ實在的原理ハ
 關係自性ヲ有ル^又ヲ確定シ其關係自性^{必也}カヲ演
 繹的ニ^此々々推シ^中中^中々々^{全宇宙一切万有ヲ}
 表ハス^力力^{即チ表現的理法}即チ表現的理法^{全宇宙一切万有ノ}
 果即チ表現的契機ヲ研究シ其理法ノ純粹哲學
 ノ根本的基礎ヲ定メ其表現的理法ノ効力ト表
 現的契機、効果トカラレテ千古未^及得^ルノ難問題

東條原稿

